CONFIDENTIAL

株式会社 翻訳センター
２０２２年３月期第２四半期決算説明資料

2021年11月

株式会社翻訳センター

（ジャスダック　証券コード：2483）

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

株式会社翻訳センター 代表取締役社長の二宮でございます。
本日はご説明会に出席いただき、誠にありがとうございます。
それではこれより説明を始めます。

本日のご説明内容

Ⅰ.２０２１年３月期第２四半期　業績

Ⅱ.事業戦略と進捗

Ⅲ.２０２２年３月期　見通し

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

本日のご説明内容はご覧のとおりです。

まず、2022年3月期第2四半期の業績についてご説明いたします。

CONFIDENTIAL

1. ２０２２年３月期 第２四半期　業績

3

単位：百万円、%、円

	2021/3期 2Q	2022/3期 2Q	増　減	伸　率
売上高	4,519	4,968	449	9.9
営業利益	△10	322	332	－
経常利益	△8	331	339	－
親会社株主に帰属する四半期期純利益	△49	219	268	－
１株当たり四半期純利益	△14.97	66.05	－	－

*2022年3月期2QにおいてはUS1ドル＝108.45円で換算しています。
*2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2020年3月31日）等を適用しており、本資料の当2Qに係る数値は一部スライドを除き、当該会計基準等を適用した後の数値で示しています。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER

こちらのスライドでは、2022年3月期第2四半期の業績についてご説明いたします。
なお今期より収益認識に関する会計基準の変更を適用しております。

2022年3月期第2四半期の売上高は49億6,800万、
同営業利益は3億2,200万、
同経常純利益は3億3,100万、
同四半期純利益は2億1,900万となりました。

前期は赤字でしたが、進行期は2Q時点で黒字を確保できております。

CONFIDENTIAL

4

2．賃借対照表

単位：百万円

	2021/3期	2022/3期 2Q	増　減
（資産の部）			
流動資産	5,515	5,656	141
固定資産	780	814	34
資産合計	6,295	6,471	176
（負債の部）			
流動負債	1,595	1,551	△44
固定負債	175	186	11
負債合計	1,770	1,737	△32
（純資産の部）			
Ⅰ．株主資本	4,514	4,715	201
Ⅱ．評価換算差額等	10	18	8
純資産合計	4,524	4,733	208
負債純資産合計	6,295	6,471	176

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

こちらのスライドでは、2022年3月期第2四半期の貸借対照表について
ご説明いたします。

総資産は64億7,100万、負債は17億3,700万、
純資産は47億3,300万となりました。
業績の積み上げを反映するかたちで変化しております。

なお、収益認識に関する会計基準変更の適用により
利益剰余金の期首残高が4,156万増加しております。

CONFIDENTIAL

3．損益計算書

5

単位：百万円、%

	2021/3期 2Q	売上比	2022/3期 2Q	増減	伸率	売上比
売上高	4,519	100.0	4,968	449	9.9	100.0
売上原価	2,530	55.9	2,613	83	3.2	52.5
売上総利益	1,988	44.0	2,354	366	18.4	47.3
販売費及び一般管理費	1,998	44.2	2,032	34	1.7	40.9
営業利益	△10	―	322	332	―	6.4
営業外収益	3	0.0	16	13	338.4	0.3
営業外費用	2	0.0	7	5	272.6	0.1
経常利益	△8	―	331	339	―	6.6
特別利益	―	―	―	―	―	―
特別損失	―	―	―	―	―	―
親会社株主に帰属する当期純利益	△49	―	219	268	―	4.4

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

こちらのスライドでは、2022年3月期第2四半期の損益計算書について
ご説明いたします。

売上高は49億6,800万、売上原価は26億1,300万、
売上総利益は23億5,400万となっております。

ここで1点、注目いただきたいのは売上総利益率です。
前2Q44%に対して当2Qは47.3%と大幅に上昇しています。

売上総利益率の上昇理由には2点あり、1点目は会計方針の変更です。
2点目は機械翻訳を使うことによって翻訳作業を効率化して原価を低減する
取り組みをおこなっており、その効果が表れた結果です。

販管費は20億3,200万、営業利益は3億2,200万となっております。

CONFIDENTIAL

4．セグメント別売上高

6

単位：百万円、%

	2021/3期 2Q	売上比	2022/3期 2Q	増　減	伸　率	売上比
翻訳事業	3,485	77.1	3,727	242	6.9	75.0
特　　許	1,019	22.5	1,124	105	10.2	22.6
医　　薬	1,341	29.6	1,448	107	7.9	29.1
工業・ローカライゼーション	876	19.4	871	△5	△0.6	17.5
金融・法務	247	5.4	284	37	14.5	5.7
派遣事業	625	13.8	610	△15	△2.4	12.3
通訳事業	197	4.3	325	128	64.7	6.5
コンベンション事業	54	1.2	95	41	75.9	1.9
語学教育事業	35	0.7	78	43	122.9	1.6
その他	120	2.6	130	10	8.3	2.6
売上高合計	4,519	100.0	4,968	449	9.9	100.0

※その他には外国出願支援事業などが含まれます。
※前期収益基準で換算した工業・ローカライゼーションの売上高は982百万（伸率　+12.0%）

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

こちらのスライドでは、2022年3月期第2四半期のセグメント別売上高について
ご説明いたします。

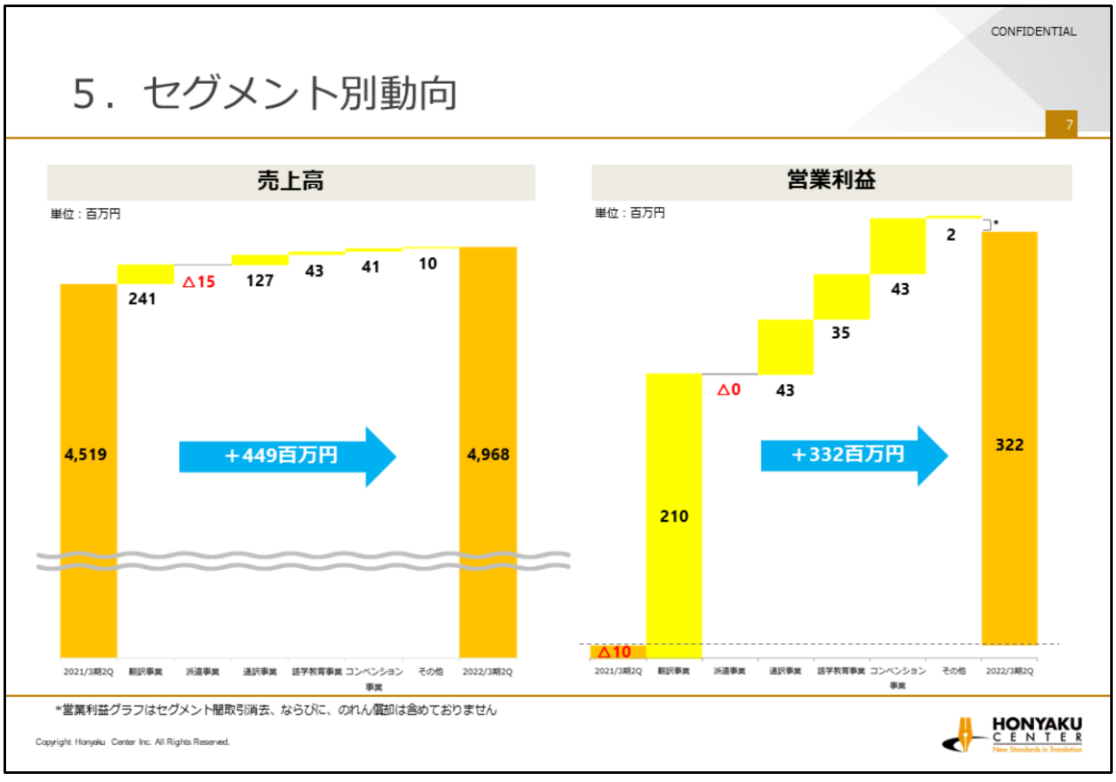
翻訳事業は37億2,700万、YoY6.9%増となりました。
特許分野がYoY10.2%増、医薬分野がYoY7.9%増と堅調に推移しています。
工業・ローカライゼーション分野はYoY0.6%減ですが、
今期より機械翻訳「Mirai Translator」の販売に伴う収益認識の変更（※）が
起因しています。
前期の会計基準であれば9億8,200万、YoY12.0%増となります。
金融・法務分野は厳しい状況が続いていた分野ですが、
当2Qは増収を確保できました。

続いて、派遣事業はYoY2.4%減ですが、非常に安定した事業ですので、
YoYで横ばいと捉えて構わないと考えています。

続いて、落ち込んでいたセグメントである通訳事業とコンベンション事業ですが、
通訳事業はオンライン通訳サービスの利用拡大もありYoY64.7%増となっています。
コンベンション事業はYoY75.9%増ですが、開催予定案件の度重なる延期や
案件小口化の影響もあり、安心できない状況にあります。

最後に、語学教育事業はYoY122.9%増と大幅に戻りました。
今期はすべての講座をオンラインに変更し、
通訳コースは授業時間と定員数を減らして開講しています。

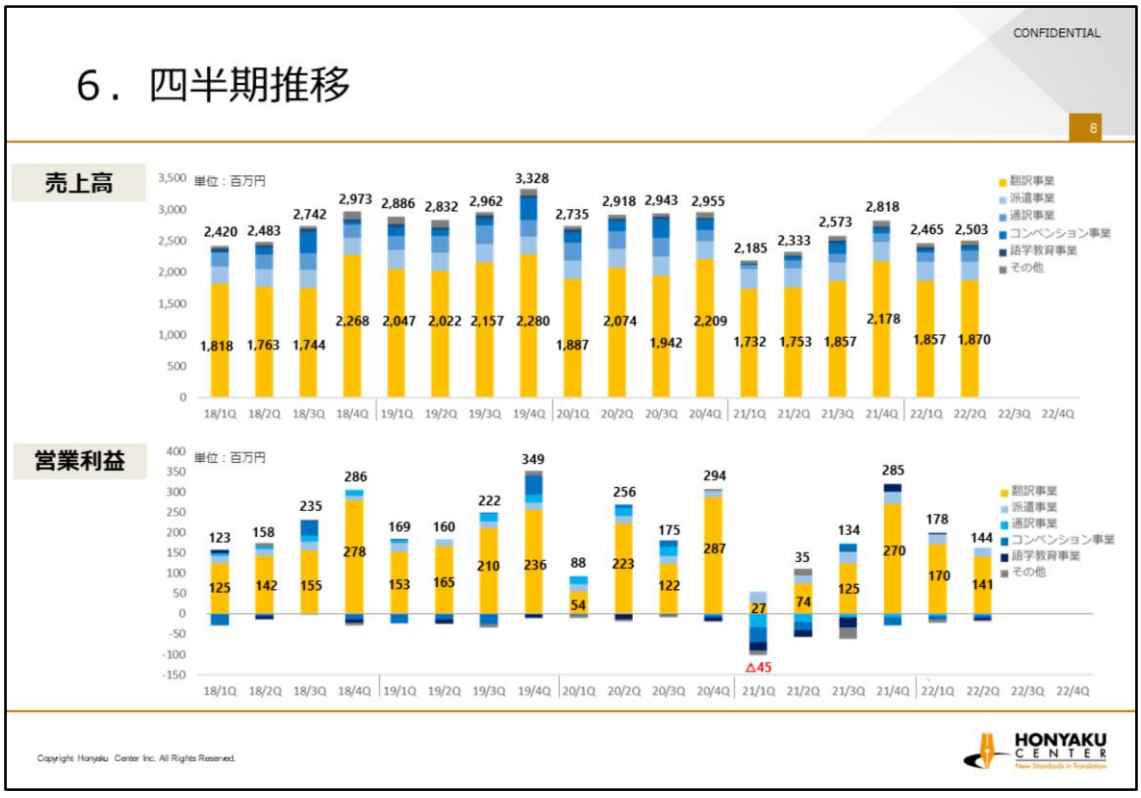
※詳細は2Q決算短信p14の【注記事項】（会計方針の変更）（収益認識に関する会計基準等の適用）欄を参照ください。



こちらのスライドでは、2022年3月期第2四半期のセグメント別動向について
ご説明いたします。

これらは売上高と営業利益を事業別にYoYで比較し、増減幅を示したグラフです。
売上は前ページのスライドでご説明したとおりです。

営業利益については前2Qは営業損失だったものが、当2Qは大幅に回復しており、
なかでも翻訳事業が最も大きく貢献しています。
通訳事業、語学教育事業、コンベンション事業はいずれも前期が赤字となり
苦しみましたが、当2Qでは赤字幅がかなり縮小し、利益回復に貢献しています。
これら3事業については、早期のうちに黒字に戻したいと考えています。



こちらのスライドは四半期の業績推移をセグメント別に示したものです。

連結売上高をご覧ください。
当2Qは25億ですが、20/2Qは29億を積み上げています。
このことからも、連結売上高はコロナ前の状況には戻っていないと考えています。

翻訳事業の売上高だけで申し上げればコロナ前の水準に近いところに戻りつつあり
このまま回復基調にのっていくという感触はありますが、
通訳事業とコンベンション事業がいまだ回復途上ですので、
できるだけ早いタイミングでコロナ前の水準の業績に戻したいと考えています。

では次に、事業戦略と進捗についてご説明いたします。

1．事業環境の変化

（1）業界環境の変化

・長期的な変化
・機械翻訳の性能向上
・機械翻訳を納期短縮、品質安定を図る手段として活用
・分野特化型の機械翻訳を共同開発し、販売（製薬カスタムモデル）

（2）コロナによるニーズ変化

・短期的な変化
・「対面」から「非対面」へ
・インターネットを活用した情報発信ニーズの高まり

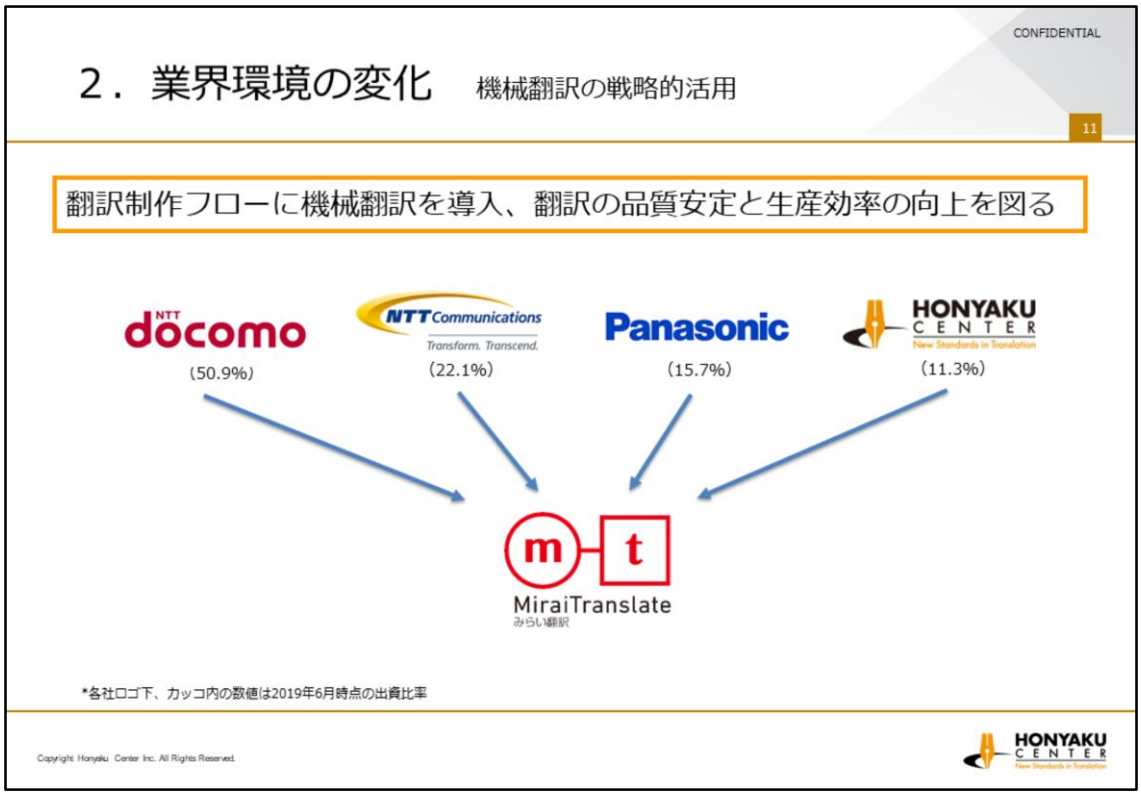
Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

こちらのスライドでは、当社を取り巻く業界環境として2点ご説明いたします。

1点目は業界環境の変化です。
長期的な変化として機械翻訳の進歩が挙げられます。
機械翻訳を前提とした中で我々は何をしようとしているのか、
という点をご説明いたします。

2点目はコロナによるニーズ変化です。
こちらは1点目のような、業界構造自体を変えいくような変化ではありませんが、
目の前で起こっていることに対して我々がどう対応しようとしているのか、
という点をご説明いたします。

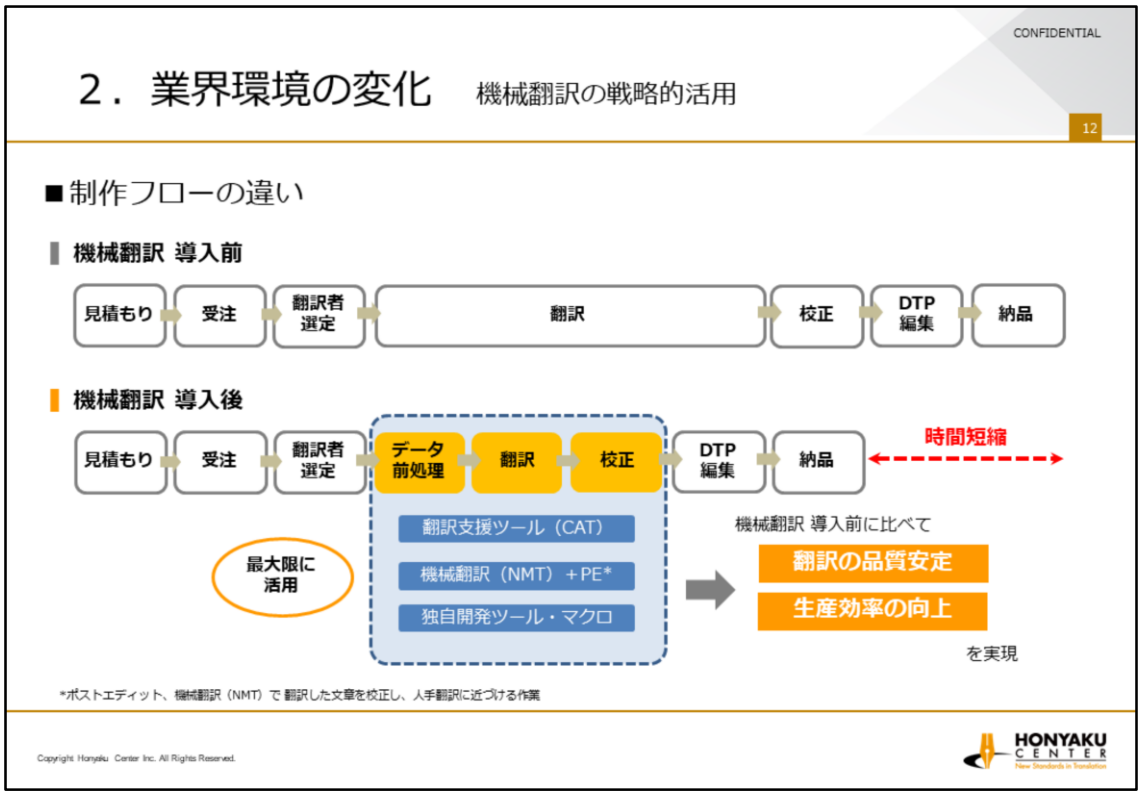


それではまず、業界環境の変化についてご説明いたします。

機械翻訳を戦略の主軸に据えるとなると、
機械翻訳の開発ベンダーとのパートナーシップ構築が必須となります。
いくつかある国内外の開発ベンダーのなかから
我々がパートナーを組ませていただいたのが（株）みらい翻訳です。

（株）みらい翻訳はNTTドコモが設立された会社であり、
NTTコミュニュケーションズ、パナソニックと我々が資本参加しており、
主にNTTコミュニュケーションズと我々が機械翻訳の販売を担い、
（株）みらい翻訳が機械翻訳「Mirai Translator」を開発するという
役割分担で事業運営を行っています。

次のスライドでは、（株）みらい翻訳というパートナーを得て、
実際に我々が機械翻訳をどのように活用しているか、ご説明いたします。



こちらのスライドでは、機械翻訳の活用方法についてご説明いたします。

我々は機械翻訳を使い、翻訳業務自体の効率化を推し進めています。

機械翻訳（NMT）が出現した当初、機械翻訳によって従来の人による翻訳はなくなるのでは
ということを随分と言われました。が、私は「それは難しいのではないか」とこのような場所で
よくご説明しておりました。

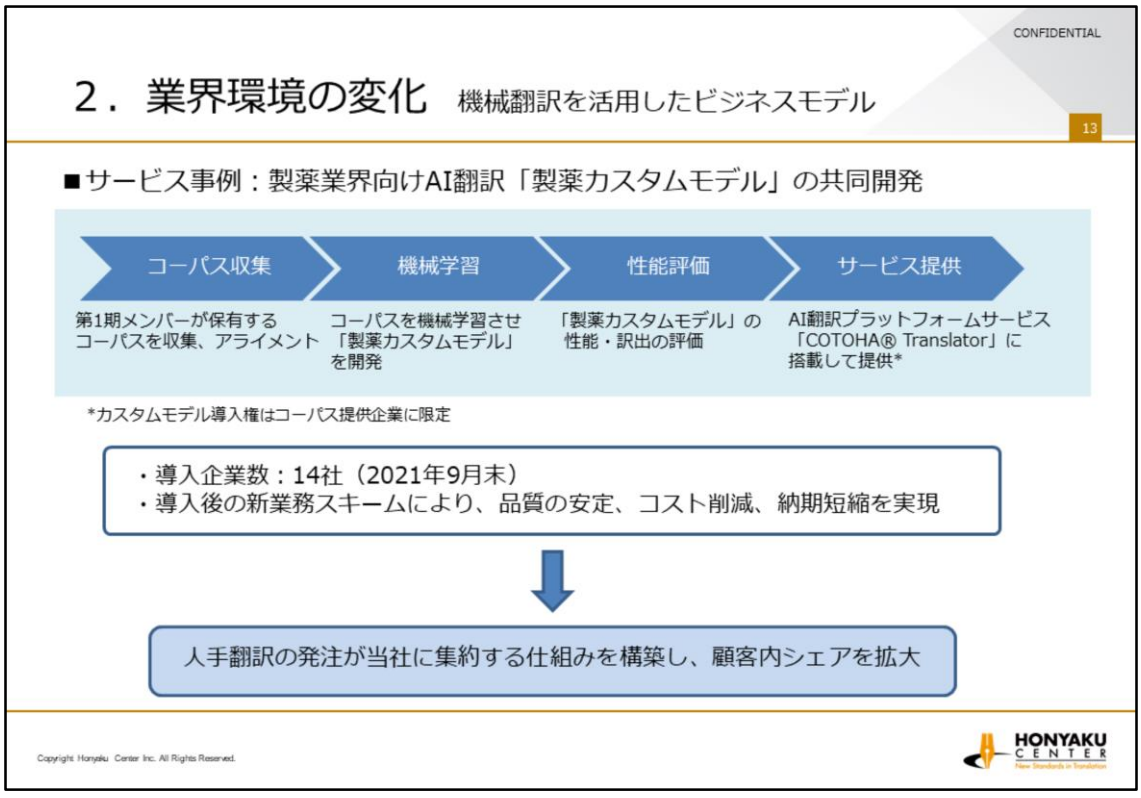
機械翻訳（NMT）の出現から数年経過しましたが、機械翻訳の精度向上は落ち着いてきていて、
このくらいはできる、このくらいが限界、というものが、ある程度見えてきています。

我々にとっては機械翻訳は道具です。その道具がようやく我々のビジネスで使える精度になってきたので、
今は、その道具をいかに使いこなしていくのか、その手法で他社と差別化を図っています。

スライドに戻ります。
上がNMT導入前、下が導入後の制作フローです。
NMT導入により翻訳作業のフローが非常にシステマティックなものに変わります。
また翻訳の品質安定と生産効率の向上というメリットが生まれます。

具体的な作業について説明します。
データの前処理、翻訳、校正、の各作業をすべて翻訳支援ツール（CAT）で行います。
CATでは原文ひとつひとつに対して訳文候補が表示されます。
訳文候補はNMTが出力した訳文、過去の翻訳メモリが出力した訳文です。
翻訳者はその訳文候補から適した訳文を選択し、必要な修正を施して、訳文を確定します。
訳文候補が表示されない場合は新たに翻訳します。
これらの作業を延々と繰り返し、翻訳を進めていきます。
また確定した翻訳文は翻訳メモリとして蓄積されていきます。

このようにCATとNMTを一緒に使う制作フローはNMT導入前の制作フローとは大きく異なるため、
導入や定着は容易ではありません。当社はNMT導入を早くから重点的に取り組んでいますので、
競合他社に比べると、NMT活用という点ではかなりよい成果が出せていると自負しています。



こちらのスライドでは、機械翻訳を活用したビジネスモデルのサービス事例について
ご説明いたします。

これまでも何度かご説明している「製薬カスタムモデル」ですが、
2021年9月末時点で14社の製薬会社様に導入いただいています。

この「製薬カスタムモデル」は自社のコーパスを提供することが導入条件です。
各社から提供いただいたコーパスを集約させて共有するため、
「製薬カスタムモデル」は非常に性能が高い、分野特化型のNMTです。

この「製薬カスタムモデル」導入により、品質の安定、コスト削減、納期短縮が実現できます。
また顧客は「製薬カスタムモデル」導入後も当社に人手翻訳を発注するだけで
導入後に処理した翻訳データは新たなコーパスとして当社内で整理・保管されます。
そして一定期間で当社がNMTに追加学習を施します。
このサイクルを繰り返すことで「製薬カスタムモデル」は性能向上が期待できるのです。
また当社にとっては、翻訳データが循環していく仕組みを構築することで
人手翻訳の発注を集約化させる目的があります。

「製薬カスタムモデル」導入企業には
翻訳のメインベンダーを切り替えた顧客もいらっしゃいます。
NMTを販売することで人手翻訳の増加が実現できるという取り組みは
非常にいい形で進んでいます。

一方、課題は「製薬カスタムモデル」の次の業界モデルを作ることにあります。
他業種において全社導入事例もありますが、
人手翻訳との連携までは提案しきれていないのが現状です。
課題解決に向けて、さまざまな取り組みを進めていきたいと考えています。

事業環境の変化（再掲）

（1）業界環境の変化

・長期的な変化
・機械翻訳の性能向上
・機械翻訳を納期短縮、品質安定を図る手段として活用
・分野特化型の機械翻訳を共同開発し、販売（製薬カスタムモデル）

（2）コロナによるニーズ変化

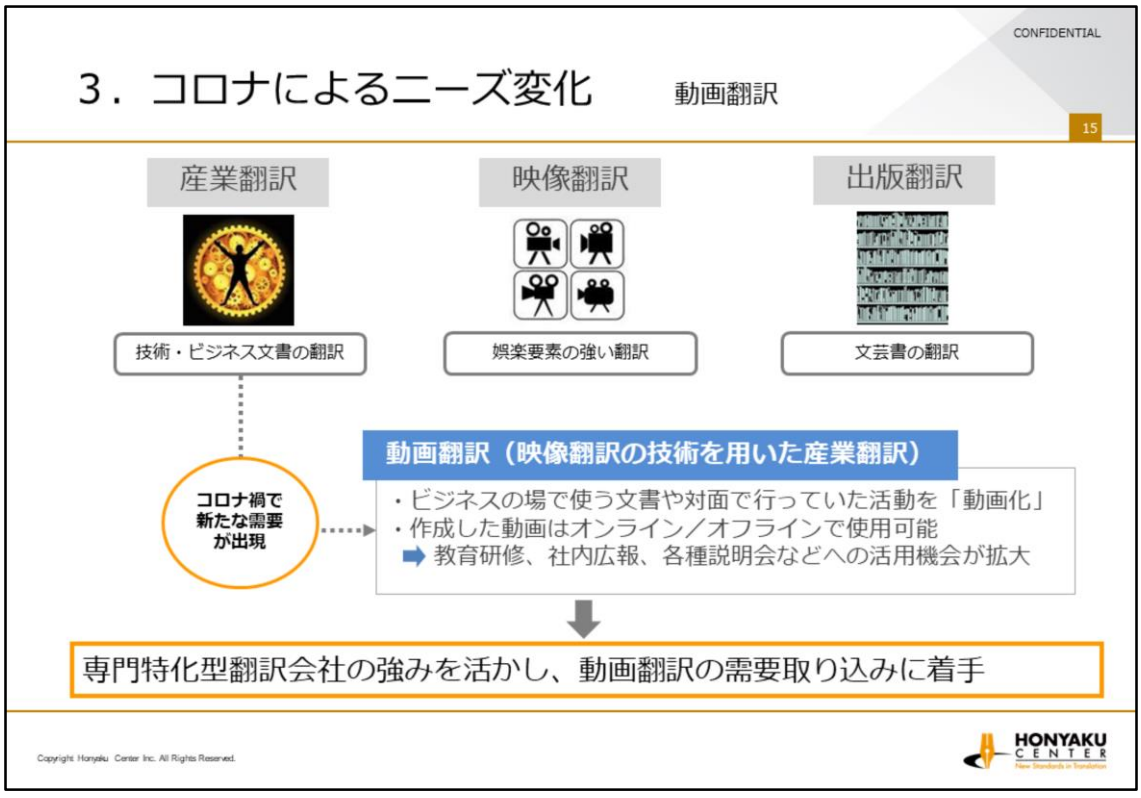
・短期的な変化
・「対面」から「非対面」へ
・インターネットを活用した情報発信ニーズの高まり

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

それでは次に、コロナによるニーズ変化についてご説明いたします。

こちらは機械翻訳に比べれば短期的な変化でありますが、
やはり足元では非常に影響が大きい部分であるのは事実です。



翻訳において一番大きな変化は「動画翻訳」のニーズが
急激に拡大してきているという点です。
この流れに対応するため、我々も今までとは違うサービスを提供しています。

動画翻訳では、映画やビデオ等、エンターテインメント系の素材を扱う映像翻訳とは
違い、教育研修や広報資料等、ビジネス系の素材を扱います。

動画翻訳のニーズ出現の背景について、ご説明いたします。
コロナ禍で、従来は対面で行ってきたことを非対面に切り替える動きが
急速に広まっています。

ビジネス系の素材、例えば研修資料等を翻訳し、
そのファイルを動画化することよって、
従来、対面で行ってきた研修を非対面で行うことが可能になるのです。
また、動画はオンライン／オフラインいずれでも使用できますので、
時差や通信インフラの問題も解消されます。

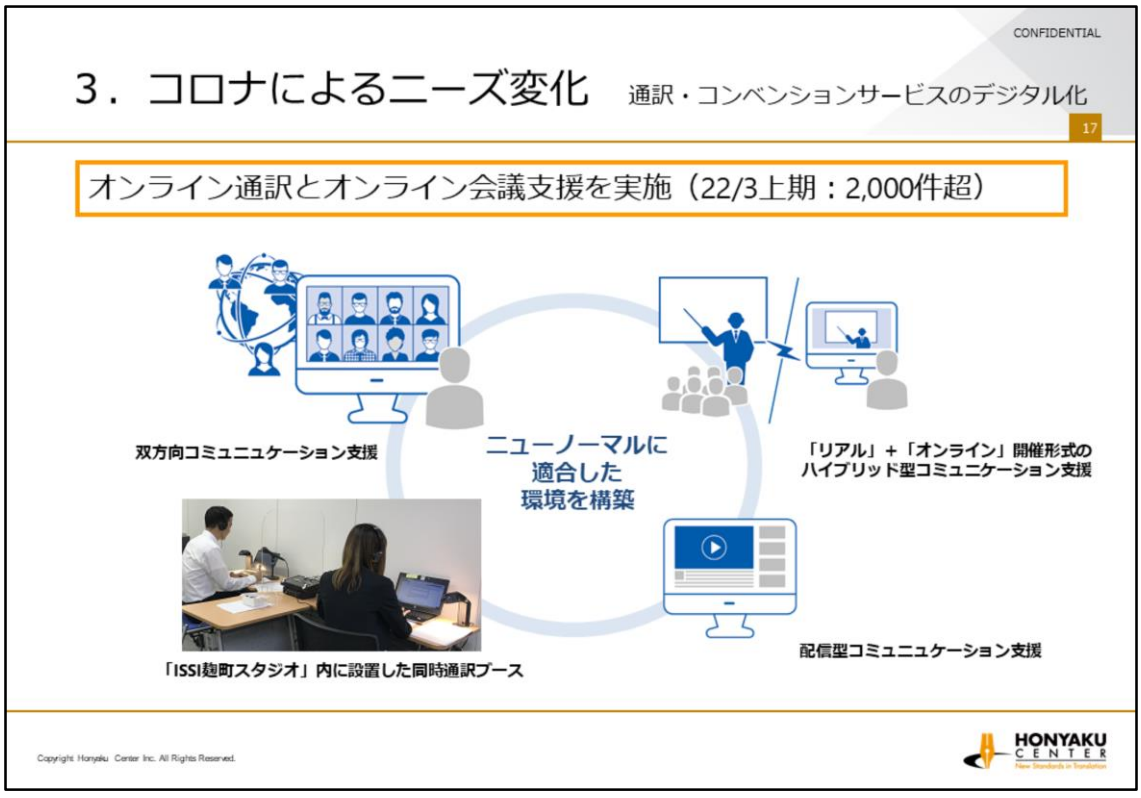
このような背景から、動画翻訳のニーズは、現在、急増しています。

こちらのスライドでは、我々がいま注力している動画翻訳のサービスである
「多言語AIナレーション」サービスについてご説明いたします。

ビジネス系の素材を翻訳して機械による音声合成を施し、翻訳と音声を合体させて
ナレーション入りのファイルを作成するのが
「多言語AIナレーション」サービスです。

コロナ前の動画翻訳ニーズの多くは広報などの対外的なものでしたが、
コロナ禍でニーズに変化が生じ、研修資料など社内的なものにも広がっています。

音声合成は人のナレーションに比べ若干の不自然さは残りますが、
外国語のナレーションをローコストで提供できる
「多言語AIナレーション」サービスは社内研修、日本国内の商業施設での館内放送、
外国人の居住者が多い地域での活用や商品・サービス紹介にも
ご利用いただいています。



通訳やコンベンション事業においては
当然ながらオンラインによるサービス提供を行っています。

通訳者もオンラインで通訳ができる体制を整えていますし、
オンライン会議システムで同時通訳を行うノウハウも構築しております。
また、養成学校内に通訳ブースや配信スタジオを開設するなど、
環境面での整備も行っております。

しかしながら、通訳やコンベンション事業は、
グローバルな人の往来が復活してこそニーズが増えるものであり、
ニーズの完全復活という点ではまだまだ厳しい状況が続くと思っています。

また技術面は問題ないものの、オンライン通訳やオンライン会議時に生じる
「時差」は解消し難い課題です。

CONFIDENTIAL

18

４．事業環境の変化　まとめ

（１）業界環境の変化

・制作フローに機械翻訳を導入して、人が機械を最大限に「使いこなす」仕組みを構築し、生産効率の向上、翻訳品質の安定を実現
・機械翻訳を人手翻訳の発注集約の手段にも活用し、顧客内シェア拡大を実現

（２）コロナによるニーズ変化

「対面」から「非対面」への変化に迅速に対応し、顧客企業の情報発信やグローバルコミュニュケーションの機会を創出

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

こちらのスライドでは、業界環境の変化の要点をご説明いたします。

1点目、業界環境の変化について
機械翻訳の出現によって業界環境が変化しつつあります。
我々は機械翻訳を道具として使いこなす仕組みを構築し、
機械翻訳を最大限に活かす取り組みを推し進めています。
機械翻訳の活用という点において、我々は業界内でトップクラスであると
自負しています。

2点目、コロナによるニーズ変化について
こちらは非対面でのコミュニュケーションの実現に向けて、
動画翻訳のニーズの取り込みと通訳・コンベンションサービスのデジタル化を
推し進めています。

それでは最後に、2022年3月期の見通しについてご説明いたします。

CONFIDENTIAL

１．２０２２年３月期　業績予想

20

単位：百万円、%、円

	2021/3期	2022/3期（予）	増減	伸率
売上高	9,910	10,350	440	4.4
営業利益	418	750	332	79.3
経常利益	465	750	285	61.2
親会社株主に帰属する当期純利益	117	500	383	324.8
１株当たり純利益	35.39	150.17	－	－
１株当たり配当金	20.0	35.0	－	－

※2022年3月期予想においては、US1ドル＝　110.00円で換算しております。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

こちらのスライドでは、2022年3月期の通期予想についてご説明いたします。

2022年3月期の通期予想は、売上高が103億5,000万、4.4%増加、
営業利益が7億5,000万、79.3%増加、当期純利益が5億、324.8%の増加を
見込んでいます。
なお8月11日に発表した上方修正の内容を据え置いております。

CONFIDENTIAL

2．セグメント別売上高　予想

21

単位：百万円、%

	2021/3期	売上比	2022/3期(予)	増　減	伸　率	売上比
翻訳事業	7,520	75.9	7,730	209	2.7	74.6
特　　許	2,100	21.2	2,200	99	4.7	21.2
医　　薬	2,875	29.0	3,000	124	4.3	28.9
工業・ローカライゼーション	2,038	20.6	2,050	11	0.5	19.8
金融・法務	505	5.1	480	△25	△5.0	4.6
派遣事業	1,228	12.4	1,250	21	1.7	12.0
通訳事業	477	4.8	630	152	31.8	6.0
コンベンション事業	298	3.0	300	1	0.4	2.8
語学教育事業	104	1.0	160	55	53.0	1.5
その他	280	2.8	280	△0	△0.3	2.7
売上高合計	9,910	100.0	10,350	439	4.4	100.0

※その他には外国出願支援事業などが含まれます。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER

こちらのスライドでは、2022年3月期の事業別売上高予想について
ご説明いたします。
なお8月11日に発表した上方修正の内容を据え置いております。

翻訳事業は77億3,000万、2.7%増加、
派遣事業は12億5,000万、1.7%増加、
通訳事業は6億3,000万、31.8%増加、
コンベンション事業は3億、0.4%増加、
語学教育事業は1億6,000万、53.0%増加を見込んでいます。

翻訳事業は金融/法務分野を除き、前期からのコロナ禍の影響が薄れ、
回復基調にあります。金融・法務分野はサービス業の顧客が多く、
お客様の事業の回復が弱いことから減収の予想を立てております。

派遣事業は当2QのYoYは減収ですが、今期末には回復する見込みと捉えています。

CONFIDENTIAL

22

3．損益計算書　予想

単位：百万円、%

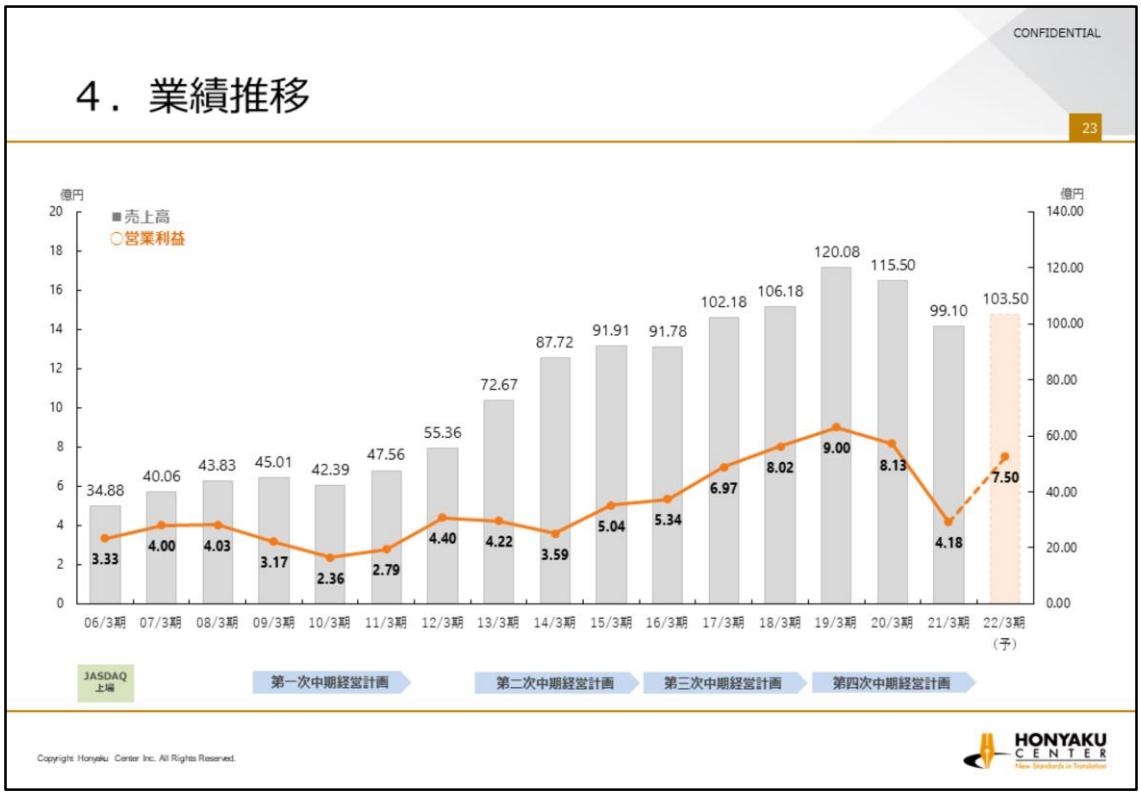
	2021/3期	売上比	2022/3期（予）	増　減	伸　率	売上比
売上高	9,910	100.0	10,350	439	4.4	100.0
売上原価	5,536	55.8	5,530	△6	△0.1	53.4
売上総利益	4,373	44.1	4,820	446	10.2	46.5
販売費及び一般管理費	3,955	39.9	4,070	114	2.8	39.3
営業利益	418	4.2	750	331	79.3	7.2
営業外損益	47	0.4	0	△47	—	—
経常利益	465	4.6	750	284	61.2	7.2
特別損益	△193	—	0	193	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	117	1.1	500	382	324.8	4.8

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

こちらのスライドでは、2022年3月期の損益計算書予想についてご説明いたします。

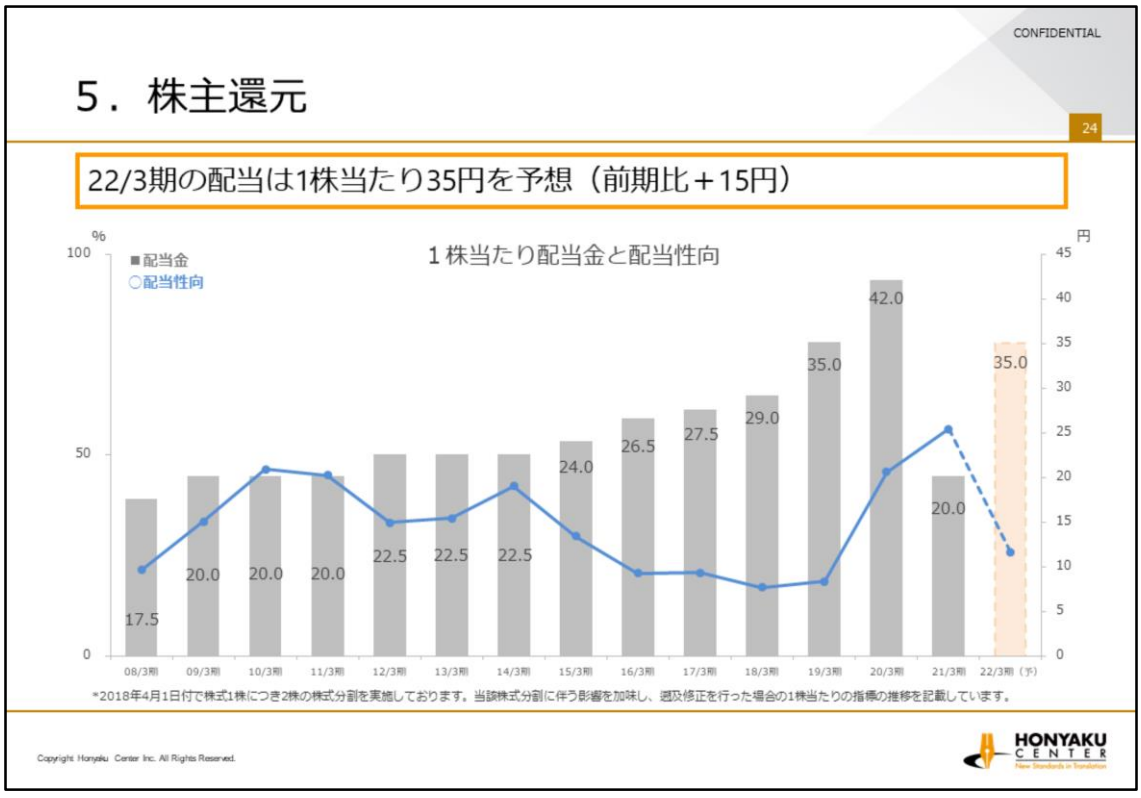
注目いただきたいのは売上総利益率です。
先にご説明した機械翻訳の導入・取り組みによって
売上総利益率の向上を目指しています。
それにより営業利益は7億5,000万、79.3%の増加を見込んでいます。



こちらのスライドでは、業績推移についてご説明いたします。

2020年3月期からコロナの影響が業績に表れはじめ、
2021年3月期はコロナの影響を全面に受けて減収となり、
2022年3月期は回復する予想を組んでおりますが、
回復はまだまだ弱いものだと捉えています。

何とか早く過去最高の業績を超えるレベルにまでもっていきたいと考えています。



こちらのスライドでは、株主還元についてご説明いたします。

当社はこれまで減配することなく、わずかでも増配することを念頭において
事業を運営してきました。
しかし前期は業績が落ち込んだために配当を下げざるをえませんでした。
その結果として配当性向が跳ね上がっています。
なお、当社では配当性向率の目安は定めておりません。

進行期の配当額は1株当たり35円を予想しております。
配当に関しても業績同様、できるだけ早い時期に
過去の最高水準にまで戻すことを目標にやっていきたいと考えています。

以上で私からの説明を終了いたします。
ご清聴ありがとうございました。

【※参加者からのご質問はありませんでした】

参考資料

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

1．事業セグメントおよびグループ会社　一覧

	翻訳事業	通訳事業	派遣事業	コンベンション事業	語学教育事業	その他
翻訳センター	●					●
アイ・エス・エス		●	●	●	●	
FIPAS						●
パナシア	●					
HC Language Solutions, Inc.	●					
メディア総合研究所	●					

*2015年4月設立のランゲージワン（株）（多言語コンタクトセンター事業）は持分法適用会社につき、事業セグメントには含めておりません。
*（株）アイ・エス・エスは2020年4月1日付で語学教育事業を展開する（株）アイ・エス・エス・インスティテュートを吸収合併しています。
*（株）外国出願支援サービスは2021年10月1日付で（株）FIPASに商号を変更しています。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

2．連結業績推移

	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
売上高（百万円）	9,178	10,218	10,618	12,008	11,550	9,910
経常利益（百万円）	534	699	812	905	822	465
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	430	444	566	630	304	117
資本金（百万円）	588	588	588	588	588	588
発行済株式総数（株）（＊1）	1,684,500	1,684,500	1,684,500	3,369,000	3,369,000	3,369,000
純資産額（百万円）	3,126	3,477	3,939	4,350	4,545	4,524
総資産額（百万円）	4,657	5,111	5,741	6,486	6,222	6,295
自己資本比率（%）	67.1	68.0	68.6	67.0	73.0	71.8
売上高経常利益率（%）	5.8	6.8	7.5	7.4	7.0	4.7
従業員数（人）（＊2）	393	413	518	507	522	509
登録者数（人）（＊3）	4,355	4,428	4,221	2,889	3,030	3,249

＊1　2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を実施
また2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施
＊2　連結正社員数
＊3　翻訳センター単体登録者数、19/3期より算出方法を一部変更

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

3．事業別業績推移

単位：百万円

	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
翻訳事業	6,727	7,035	7,593	8,506	8,112	7,520
特 許	1,799	1,824	1,880	2,139	2,258	2,100
医 薬	2,376	2,445	2,744	2,897	2,749	2,875
工業・ローカライゼーション	1,917	2,020	2,239	2,725	2,472	2,038
金融・法務	633	745	729	744	632	505
派遣事業	881	900	1,127	1,192	1,200	1,228
通訳事業	632	783	933	1,039	1,022	477
コンベンション事業	550	1,107	496	677	782	298
語学教育事業	213	210	197	200	171	104
その他	171	180	269	392	261	280
売上高合計	9,178	10,218	10,618	12,008	11,550	9,910

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

4．損益計算書　推移

単位：百万円、%

	2016/3期	構成比	2017/3期	構成比	2018/3期	構成比	2019/3期	構成比	2020/3期	構成比	2021/3期	構成比
売上高	9,178	100.0	10,218	100.0	10,618	100.0	12,008	100.0	11,550	100.0	9,910	100.0
売上原価	5,307	57.8	6,026	58.9	6,112	57.5	6,999	58.2	6,625	57.4	5,536	55.8
売上総利益	3,871	42.2	4,191	41.0	4,506	42.4	5,009	41.7	4,925	42.6	4,373	44.1
販売費及び一般管理費	3,336	36.3	3,494	34.2	3,704	34.8	4,108	34.2	4,111	35.6	3,955	39.9
営業利益	534	5.8	697	6.8	802	7.5	900	7.4	813	7.0	418	4.2
営業外収益	3	0.0	5	0.0	10	0.0	5	0.0	10	0.1	49	0.4
営業外費用	3	0.0	3	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	2	0.0
経常利益	534	5.8	699	6.8	812	7.6	905	7.5	822	7.1	465	4.6
特別損益	142	1.5	1	0.0	12	0.0	50	0.4	△324	–	△193	–
税金等調整前当期純利益	676	7.4	700	6.9	824	7.7	954	7.9	498	4.3	271	2.7
親会社株主に帰属する当期純利益	430	4.7	444	4.3	566	5.3	630	5.2	304	2.6	117	1.1
販売費及び一般管理費	3,336	100.0	3,494	100.0	3,704	100.0	4,108	100.0	4,111	100.0	3,955	100.0
人件費	2,362	70.8	2,537	72.6	2,653	71.6	2,878	70.0	2,926	71.2	2,786	70.4
人件費以外	973	29.2	957	27.4	1,051	28.4	1,230	30.0	1,185	28.8	1,169	29.6

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

5．賃借対照表　推移

単位：百万円

	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
（資産の部）						
流動資産	4,097	4,632	4,668	5,220	5,213	5,515
固定資産	559	478	1,072	1,265	1,009	780
資産合計	4,657	5,111	5,741	6,486	6,222	6,295
（負債の部）						
流動負債	1,435	1,543	1,718	1,974	1,503	1,595
固定負債	95	90	83	161	173	175
負債合計	1,531	1,633	1,801	2,135	1,676	1,770
（純資産の部）						
Ⅰ．株主資本	3,094	3,449	3,923	4,332	4,531	4,514
Ⅱ．その他の包括利益累計額	31	28	15	17	13	10
Ⅲ．少数株主持分	－	－	－	－	－	－
純資産合計	3,126	3,477	3,939	4,350	4,545	4,524
負債純資産合計	4,657	5,111	5,741	6,486	6,222	6,295

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

株式会社翻訳センター　経営企画室

TEL:03-6369-9963　E-mail:ir@honyakuctr.co.jp
URL：http://www.honyakuctr.com/

本資料は、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘するものではありません。
本資料に掲載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または
約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation